

Web カメラキャプチャソフト WebCameraSnap

Version1.01(r2)

取扱説明書

WindowsXP/Vista 用

2008 年 12 月 3 日

有限会社ワンクリエーション

このたびは、弊社 Web カメラキャプチャーソフトをご選択いただきありがとうございます。

本ソフトウェアは、WindowsXP/Vista をインストールしたパソコンと Web カメラと組み合わせて利用します。

本ソフトは、Web カメラの映像を静止画像として取得して、取得した静止画像に対して様々な処理を行う機能を備えています。定点観測、動き検出、クレイアニメ用コマ撮り、など多様な目的にお応えできますので、まずは、基本的な使い方からお始めいただき、徐々に他の機能もお試してください。何かしら必ずお役に立てると考えています。

本取扱説明書は次の各章から成り立っていますので、どうぞご活用ください。

1. ソフトを使い始める前にすること P.3～P.4

本ソフトウェアをインストールする前に確認することが説明されています。
パソコンの仕様確認と、Web カメラのインストールは必ず行ってください。

2. ソフトをインストールしましょう P.5～P.6

本ソフトウェアのインストール方法が WindowsXP を例に説明されています。
実際のインストール画面を掲載していますので、インストールを行う時の参考にしてください。
WindowVista 特有の画面が表示される箇所は、該当箇所で説明しています。

3. ソフトの初期設定をしましょう P.7～P.22

本ソフトウェアの設定項目を画面毎に説明しています。機能が多いため、設定画面がたくさんありますが、まずは、最小限の設定でお使いください。少し慣れてから様々な機能を探検してください。

4. ソフトを使ってみましょう P.23～P.29

本ソフトウェアの基本的な使い方が順番に説明されています。

- 4.1 Web カメラの映像を表示させてみよう。
- 4.2 手動で撮影してみよう。
- 4.3 定期的に撮影させてみよう。
- 4.4 動きを検出したら撮影させてみよう。

5. 評価版について P.30

本ソフトウェアはインストールした直後は評価版です。本ソフトウェアにライセンスキーを登録すると製品版になります。評価版と製品版の違いについて、また、ライセンスキーの入手方法について説明しています。

6. 困った時の対処方法 P.31

困った時の参考になる Q&A を掲載した Web サイトのアドレス、問い合わせ先を記載しています。

7. その他 P.32

8. 編集履歴 P.32

1. ソフトを使い始める前にすること

本取扱説明書は WindowsXP Professional 日本語版を対象にして記述しています。パソコンの画面は、画面のテーマを Windows クラシックにして作成しています。もし、インストールするパソコンの画面が本書と大きく異なり、設定が難しい場合は、以下の手順でクラシック表示に切り替えた後、設定を行ってください。

クラシック表示への変更方法

スタート→設定(S)→コントロールパネル(C)→画面

画面のプロパティが表示されるので、「テーマ」タブをクリック(最初に開かれている画面です)＞テーマ(T)において「Windows クラシック」を選択して「OK」をクリックしてください。しばらく待つとパソコンの画面がクラシック表示に変更されます。

ハードウェアの仕様

本ソフトは以下の仕様を満たしたハードウェア環境で動作します。仕様を満たしていない場合でも動作する場合がありますので、まずはお試してください。

- ・パソコン： WindowsXP または WindowsVista が動作している PC
- ・メモリ： 1GB 以上を推奨します。
- ・CPU： Pentium4 1.6GHz 以上を推奨します。

Web カメラを 2 台以上使う場合は、Core2Duo2GHz クラス、メモリ 2GB 以上を推奨します。

- ・ハードディスク： 数十ギガバイト程度必要ですが、保存する静止画像のサイズおよび保存期間に依存します。
- ・Web カメラ： DirectShow 対応、ビデオ形式は RGB24 のみ、USB 接続タイプで結構です。
- ・ディスプレイ： 1024 x 768 ピクセル以上を推奨します。

追加のソフトウェア

・Microsoft の .NET Framework 2.0 が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、本ソフトをインストールする際にインストールプログラムが Microsoft 社の Web ページを開けます。

Web ページから Microsoft .NET Framework 2.0 をダウンロードしてインストールしてください。

(*)WindowsVista の場合、追加のソフトウェアはありません。

インターネット

・電子メールで画像を送信する場合は、ADSL、光ファイバー、CATV、無線などのインターネット常時接続サービスが必要です。

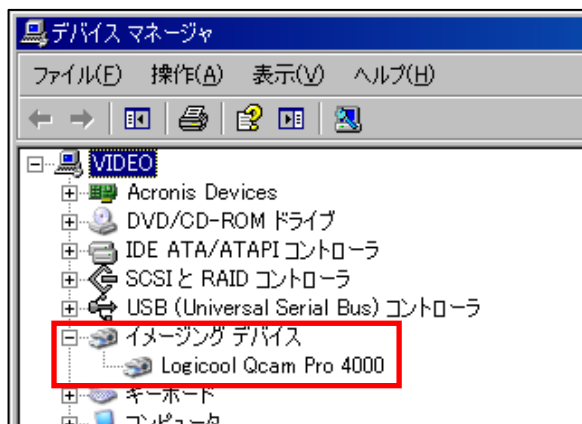
Web カメラがインストールされているかどうかの確認方法

本ソフトのインストールに先立ち、DirectShow 対応の Web カメラをパソコンにインストールしてください。出力サイズは 160×120、320×240、640×480、800×600、1280×1024、1600×1200 ピクセルなどに対応しています。ビデオ形式は **RGB24** にのみ対応しており、他の形式(例えば YUY2 や I420 など)には対応していません。

以下の方法で Web カメラのインストール状況を確認してください。

スタート→設定(S)→コントロールパネル(C)→システム

システムのプロパティ画面が表示されるので、「デバイスマネージャ(D)」をクリック



イメージングデバイスにインストール済みの Web カメラが表示されていたら Web カメラはインストールされています。左の例では、Logicoool Qcam Pro 4000 がインストールされています。

まだ Web カメラのドライバーをインストールしていない場合は、Web カメラのマニュアルを参考にインストールを行ってください。

イメージングデバイスに Web カメラが表示されていても DirectShow に対応していないものは本ソフトからは利用できません。

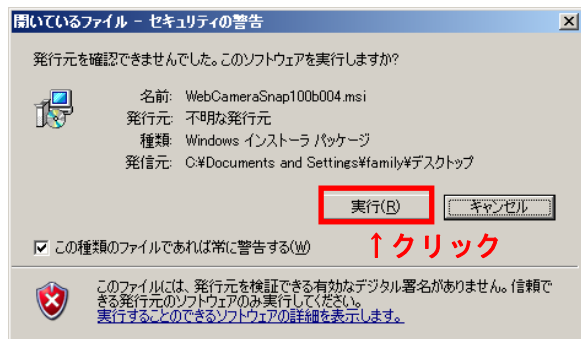
その他

Web カメラ、パソコン、ハードディスクの性能が高ければ、より多くのフレーム数、解像度で静止画像を記録することができます。

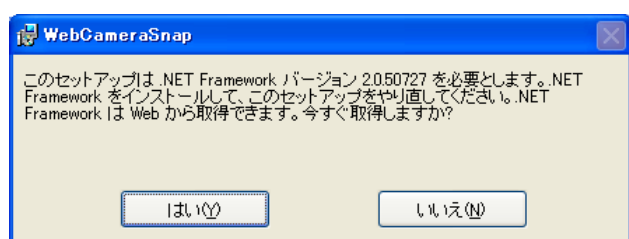
2. ソフトをインストールしましょう



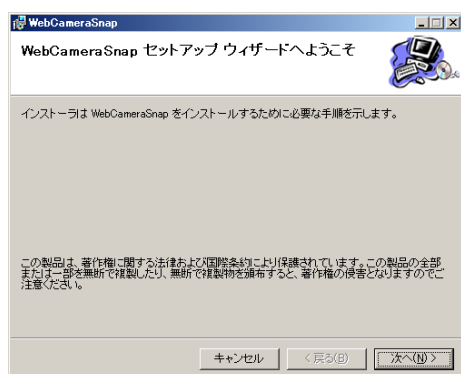
インターネットからダウンロードしたインストールプログラムファイル「WebCameraSnapXXX.msi」をダブルクリックしてください(XXX にはバージョン番号が入ります)。インストールプログラムが起動します。



セキュリティの警告が表示されたら、「実行(R)」をクリック

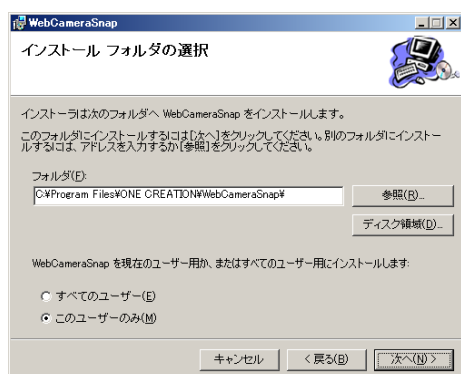


WindowsXP で左の画面が表示された場合は、.NET Framework Version2.0 がパソコンにインストールされていません。「はい(Y)」をクリックし Microsoft のダウンロードページに移動し.NET Framework Version2.0 をダウンロードしインストールした後、セットアップを行ってください。



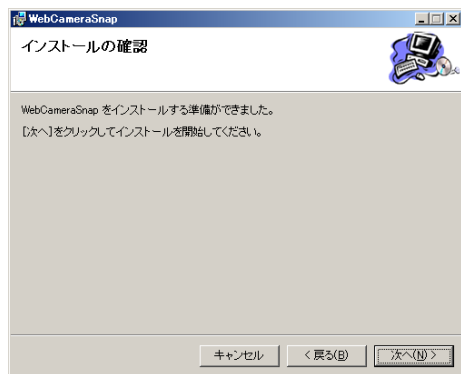
WebCameraSnap セットアップウィザードへようこそ

「次へ(N)」をクリック



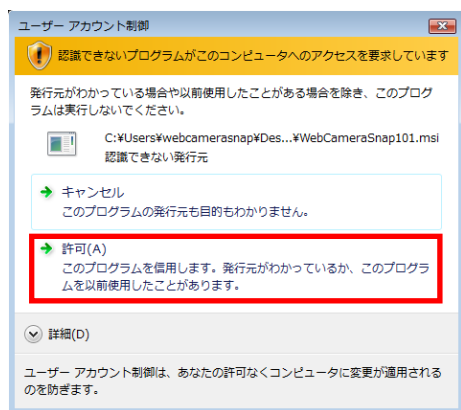
インストールフォルダの選択

「次へ(N)」をクリック



インストールの確認

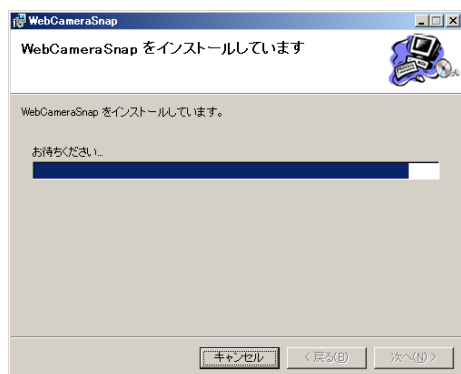
「次へ(N)」をクリック



Windows Vista の場合

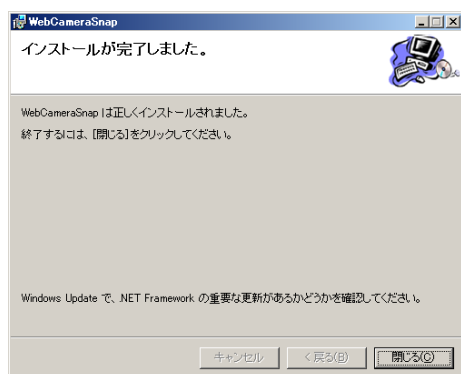
Windows Vista の場合は左の画面が表示されます。

「許可(A)」をクリックしてください。



WebCameraSnap をインストールしています

インストール中です、しばらくお待ちください。



インストールが完了しました

インストールが完了しました。「閉じる」をクリックしてインストールを完了してください。

以上でインストールが完了しました。

「3. ソフトの初期設定をしましょう」にお進みください。

3.ソフトの初期設定をしましょう

デスクトップ画面にプログラムのショートカットができていますので、アイコンをダブルクリックしてください。

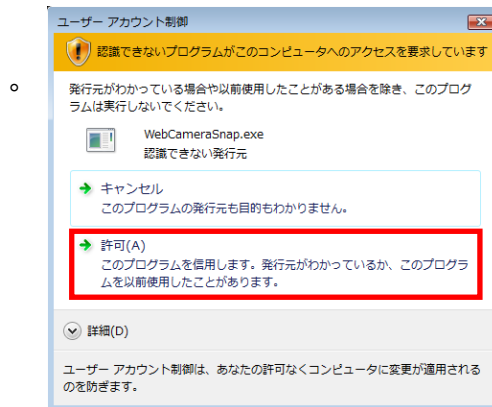
WindowsXP の場合



WindowsVista の場合



WindowsVista の場合



WindowsVista の場合は左の画面が表示されます。

「許可(A)」をクリックしてください

Web カメラキャプチャーソフトのメイン画面が起動します。

メイン画面



「設定表示」をクリックすると設定パネルがメイン画面のすぐ下部に表示されます。

では、これから最小限の設定を行いましょう。設定が必要な項目は、見出しの右側に

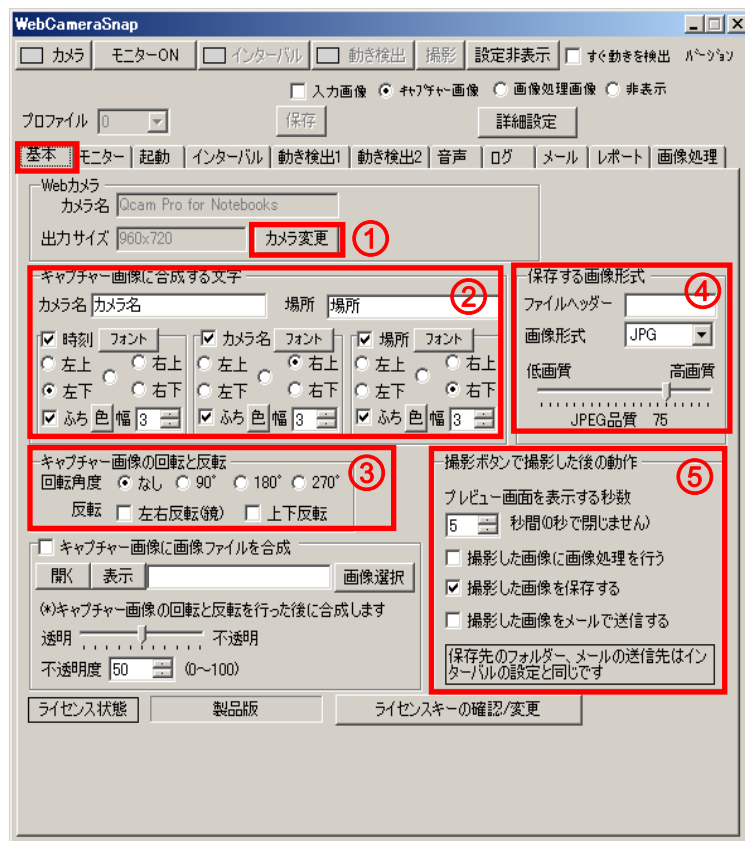
この項目の設定を行ってください

のように記しています。

3.1 基本設定

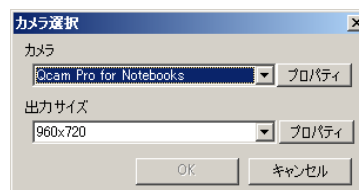
必ず①の Web カメラ設定を行ってください

▼設定パネル＞基本



①Web カメラの設定

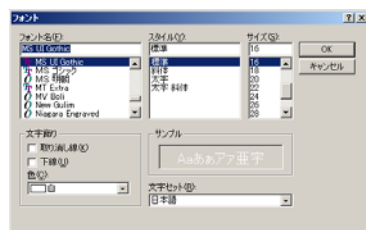
「カメラ変更」をクリック



インストールしているカメラと撮影する画像サイズを選択し「OK」をクリック

②キャプチャー画像に合成する文字を設定

「フォント」をクリック



フォントの種類、スタイル、サイズ、色などを選択できます。

「色」をクリック



ふちの色を選択できます。

③キャプチャー画像の回転と反転

画像を回転させる時、反転させる時に選択してください。

④保存する画像形式

キャプチャー画像の画像形式としてJPG,BMP,PNGを選択できます。JPGの品質は0～100%を設定できます。パーセントの数値を大きくすると画質はよくなりますが、ファイルサイズは大きくなります。標準値は75%です。ファイルヘッダに文字(英数字)を入れると、その文字を保存する画像ファイル名の先頭に付加します。

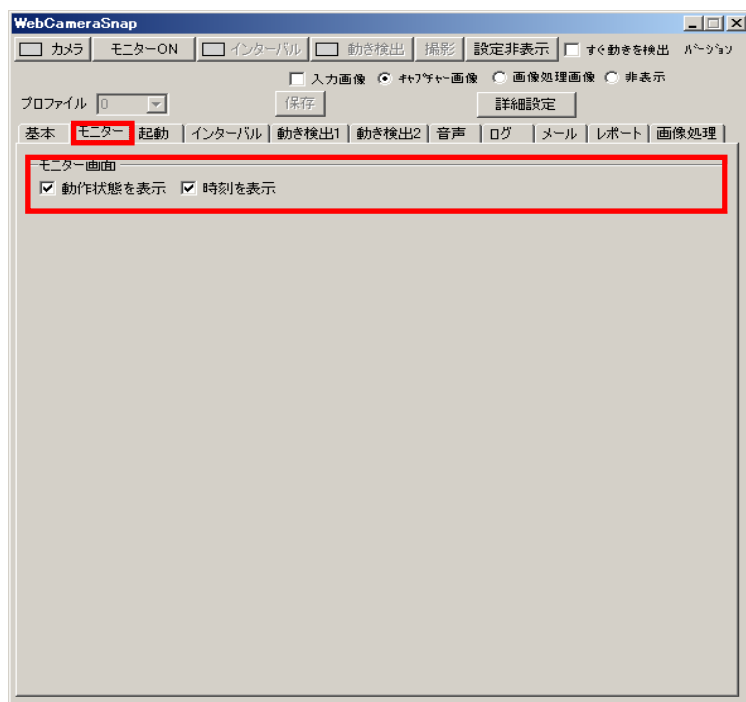
⑤撮影ボタンを撮影した後の動作

撮影ボタンをクリックすると、キャプチャー画像をプレビュー画面に表示します。撮影ボタンをクリックして撮影した時の動作を設定します。

3.2 モニター画面設定

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル>モニター



モニター画面に表示する情報を設定します。
「動作状態」と「時計」を選択できます。

(表示例)



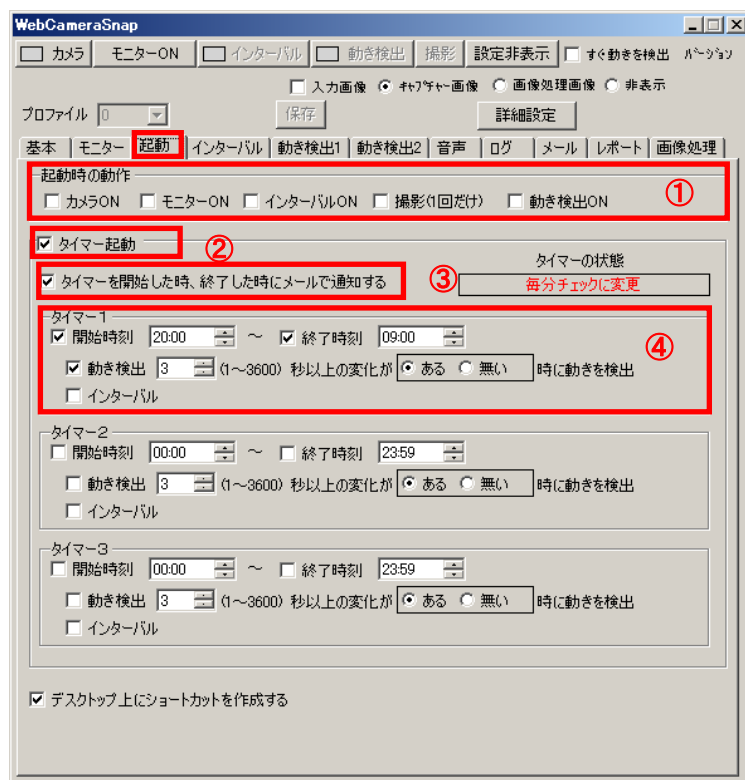
画面上部に動作状態、画面下部に時刻を緑色で表示しています。

この情報は、モニター画面に表示されるだけで、撮影した画像には表示されません。
つまり、撮影した映像を保存した画像ファイルやメールに添付した画像には入りません。

3.3 起動条件の設定

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル＞起動



①ソフトを起動した時の状態を設定します

②タイマーでカメラの電源を ON/OFF する時に設定します。

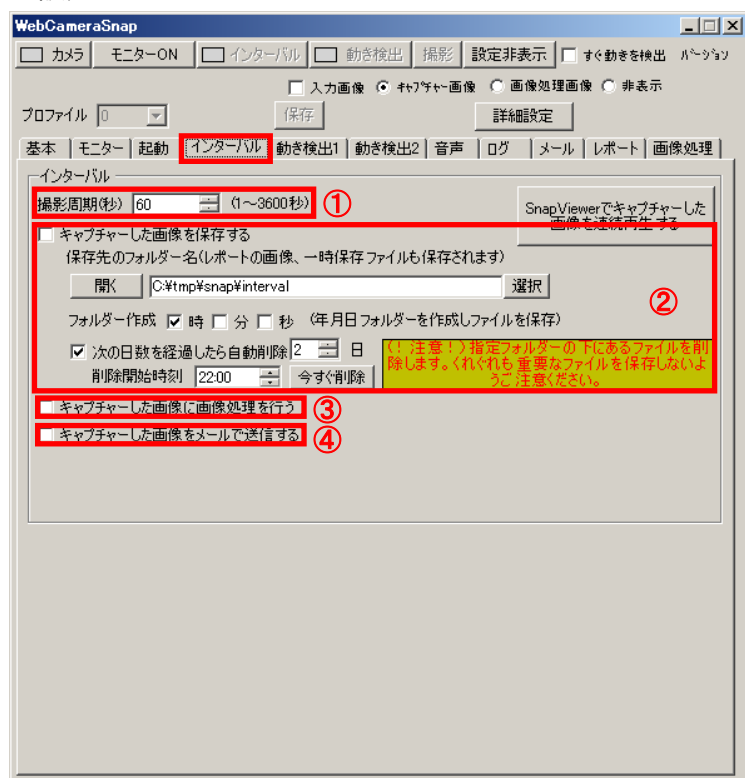
③タイマーでカメラの電源を ON/OFF した時に、メールで通知する場合にチェックします。送付先は「設定パネル＞メール＞メール送信先」で設定したアドレスです。

④カメラの電源を開始時刻に ON にし、終了時刻に OFF にする設定を行います。チェックしたタイマーが有効です。②のチェックが入ってはじめてタイマーが動作します。

3.4 インターバル撮影の設定

▼設定パネル＞インターバル

画像を保存する場合は②を必ず設定してください



①定期的にキャプチャーする周期を指定します。1～3600 秒の間で 1 秒刻みの設定ができます。

②定期撮影した画像の保存先を設定します。

保存先のフォルダー名

保存先のフォルダー名を入れてください。空欄のままだと保存することができません。

次の日数を経過したら自動削除

指定した日数(0～30)を経過すると、古い画像ファイルを自動的に削除できます。保存先のフォルダーにあるすべてのファイルが対象になります。

フォルダーはキャプチャー画像の保存専用にしてください。他の重要なファイルは決して置かないようにしてください。日数を経過するとファイルが消えます。

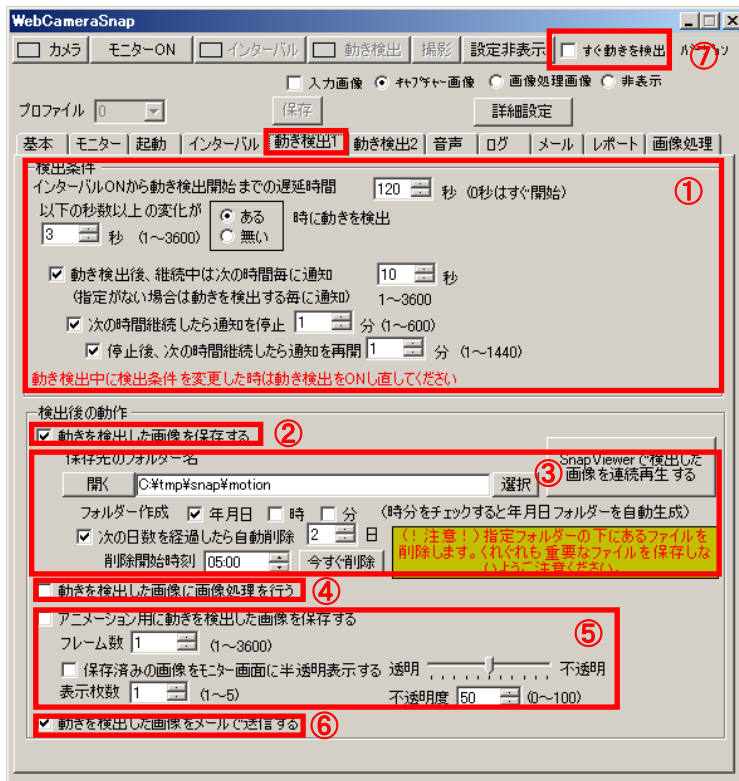
③キャプチャーした画像に「設定パネル＞画像処理」で指定した画像処理を行います。

④定期的にキャプチャーした画像をメールに添付して送信します。送付先は、「設定パネル＞メール」で設定したアドレスです。

3.5 動き検出設定(1)

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル>動き検出 1



①検出条件

「インターバル ON から動き検出開始までの遅延時間」は、「動き検出」ボタンをクリックしてから実際に検出を開始するまでの遅延時間(秒数)を指定します。

(*)すぐに動きを検出したい時は、⑦の「すぐ動きを検出」にチェックを入れてから「メイン画面」の「動き検出」ボタンをクリックしてください。

②動きを検出した画像を保存する場合にチェックを入れてください。

③保存先のフォルダー名

動きを検出した画像を保存するフォルダーを設定します。

保存先のフォルダー名

保存先のフォルダー名を入れてください。空欄のままだと保存することができません。

次の日数を経過したら自動削除

指定した日数(0~30)を経過すると、古い画像ファイルを自動的に削除できます。

保存先のフォルダーにあるすべてのファイルが対象になります。

フォルダーは動きを検出した画像の保存専用にしてください。他の重要なファイルは決して置かないようにしてください。日数が経過するとファイルが消えます。

④動きを検出した画像に画像処理を行う時にチェックを入れてください。

⑤アニメーションのコマ撮りに便利な機能を使う時に設定します。

「動きを検出した画像を保存する」②の項目にチェックが入っており、かつ「アニメーション用に動きを検出した画像を保存する」にチェックが入っている時にのみ使えます。本機能を利用する時は、動きの変化が「無い」時を指定してお使いください。また、設定項目の意味は次のようになっています。

フレーム数：動きを検出した時に保存する映像の枚数を指定します。動きを検出開始してから検出を終了するまでの映像のうち、開始してから何枚までを保存するかを指定します。既定値は1枚です。

表示枚数：モニター画面に表示する直前の撮影映像の枚数を指定します。

不透明度：直前の撮影映像を表示する際に不透明度を指定します。0%で透明、100%で不透明です。

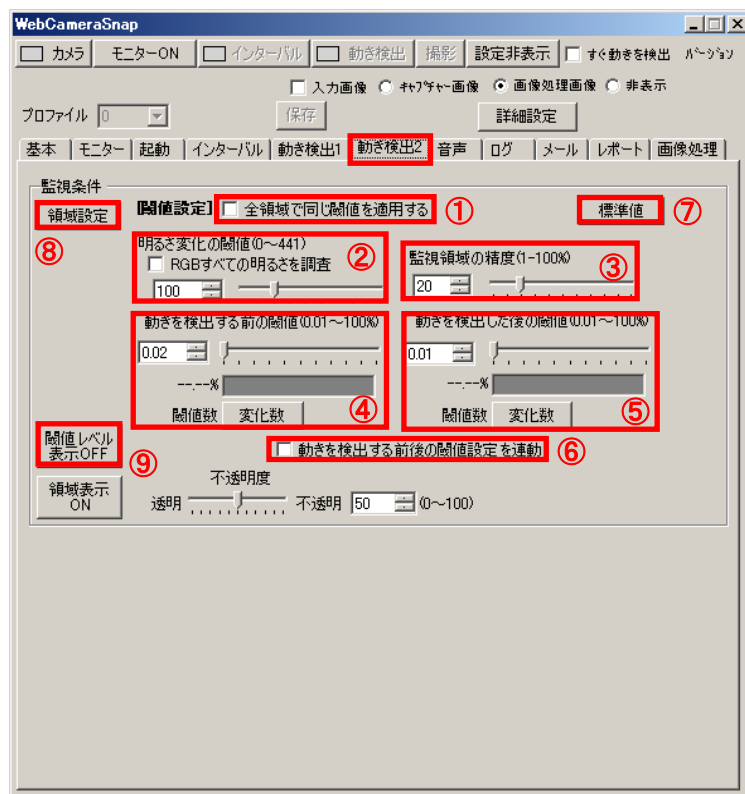
⑥動きを検出するとメールを送信したい時にチェックを入れてください。送信する状況は、(1)検出を開始した時、(2)検出を継続している時、(3)検出を終了した時、の3通りです。メールの送信先は、▼設定パネル>メールで設定します。

3.6 動き検出設定(2)

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

3.6.1 動きを検出する閾値(感度)の設定

▼設定パネル>動き検出 2 > 閾値設定



「動き検出 2」タブをクリックすると閾値の設定画面が開きます。

- ① すべての監視領域で同じ閾値(しきいち)を使う場合にチェックを入れます。通常は監視領域毎に個別の閾値を使います。
- ② 明るさの閾値(0~441)を設定します。標準は 100 で赤成分の明るさを検査します。「RGB すべての明るさを検査」にチェックを入れると RGB すべての成分を検査します。
- ③ 監視領域の精度を指定します。100%にするとすべてのピクセルを検査します。キャプチャーサイズが大きくなると精度を低くしても大丈夫です。標準は 20%です。数値を大きくすると

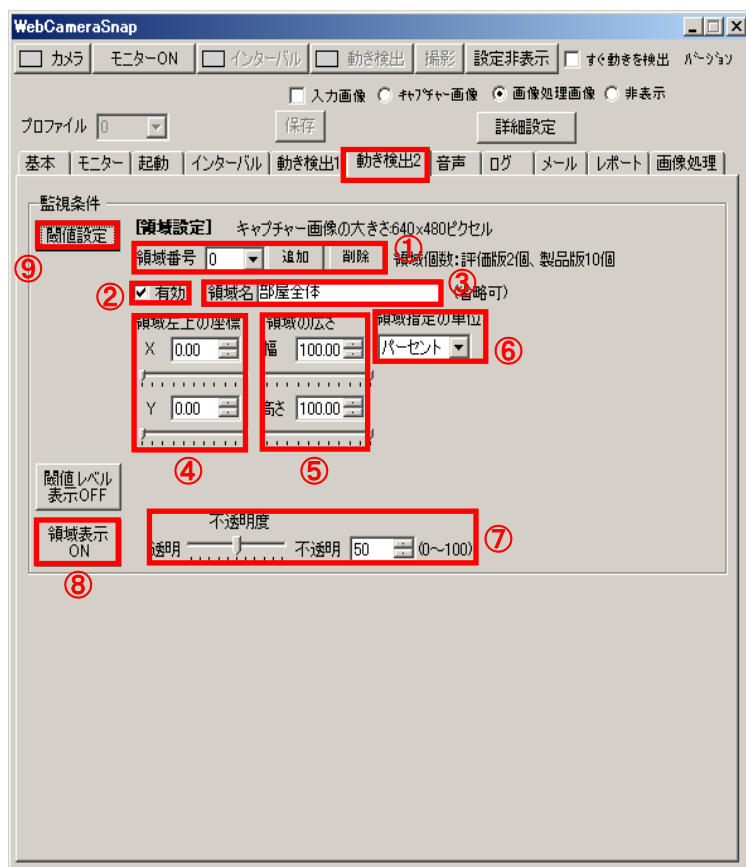
検査できるキャプチャー枚数が少なくなります。

- ④ ピクセルの変化数をキャプチャー画像の全ピクセル数に対する割合で指定します。変化数がこの割合を超えた時に「動きあり」とみなします。標準値は 0.02%ですが、実際の環境で調整してください。
- ⑤ ピクセルの変化数をキャプチャー画像の全ピクセル数に対する割合で指定します。動きを検出した後の閾値を設定します。
動きを検出する前の閾値は④の値で、動きを検出した後の閾値は⑤で指定します。動きを検出した後は、少しの変化であっても見逃したくない時には、⑤の数値を④の数値より小さくしてください。
- ⑥ 動きを検出する閾値を④と⑤で同じ値にしたい時にチェックを入れ、閾値を設定してください。
- ⑦ 閾値を標準値にする時にクリックします。
- ⑧ 閾値設定画面では「領域設定」と表示されています。クリックすると領域設定画面に切り替わります。
- ⑨ 閾値レベル表示を ON にすると「動き検出」を実行中に動きの変化を④および⑤のバーに表示します。動き検出中でない時に、バーは変化しません。確認の時だけ ON にし、確認が終わったら OFF にしてください。

3.6.2 動きを検出する監視領域の設定

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル>動き検出2>領域設定



①監視領域を選択・追加・削除します

「追加」をクリックすると監視領域を追加できます。標準サイズは画面の中央部分です。

「削除」をクリックすると選択されている領域番号の監視領域を削除します。最後の1個は消えません。

[監視領域の個数]

- ・評価版：2個
- ・製品版：10個

②有効にチェックを入れると「動き検出」を ON にした時に、監視領域の変化を監視します。

③領域名を設定できます。

例えば「部屋全体」「入り口」などわかりやすい名前を付けてください。空欄のままでも構いません。

④監視領域の左上の座標を設定します。監視領域は矩形で左上の座標 (X,Y) と領域の広さ (幅・高さ) で設定します。ピクセルまたはキャプチャー画面サイズに対する割合 (パーセント) で設定できます。

⑤監視領域の大きさを設定します。ピクセルまたはキャプチャー画面サイズに対する割合で設定できます。

⑥監視領域を指定する時の単位を設定します。ピクセルまたはパーセントを指定できます。

⑦監視領域をモニター画面に表示する時の不透明度を設定します。100%は不透明、0%は透明です。

⑧領域表示を ON にするとモニター画面に動きを検出する監視領域を表示します。



監視領域は水色で表示され、Web カメラの映像と重ね合わせて表示されます。

監視領域を Web カメラの映像に重ね合わせる不透明度を⑦の値で指定できます。

領域の確認を行う時だけ ON とし、確認が終わったら OFF にしてください。

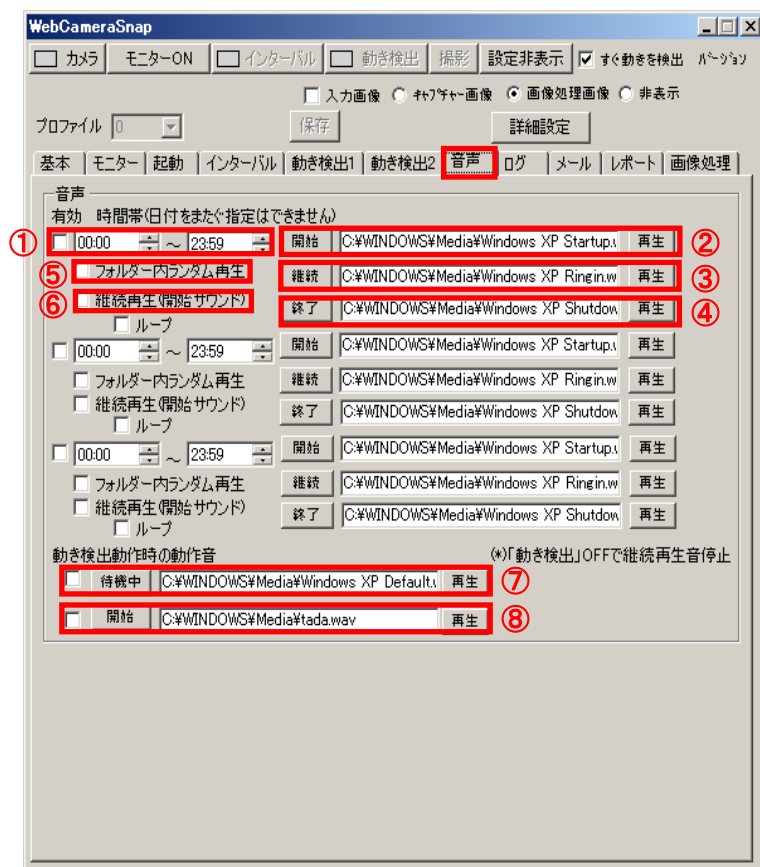
(*)「動き検出」がクリックされ動作中の時だけ、Web カメラの映像との合成表示ができます。

⑨領域設定画面では「閾値設定」と表示されています。クリックすると閾値設定画面に切り替わります。

3.7 音声

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル＞音声



動きを検出した時にサウンドを鳴らすことができます。再生するサウンドファイルを時間帯別に設定することができます。

①時間帯を設定します。サウンドファイルの再生を有効にする場合にチェックを入れます。

②動きの変化を「検出開始」した時のサウンドファイルを設定します。

「開始」をクリックするとファイルの選択画面が開きます。

「再生」をクリックすると選択しているサウンドファイルを再生します。

③動きの変化が「検出継続」されている時に再生するサウンドファイルを設定します。

「開始」をクリックするとファイルの選択画面が開

きます。

「再生」をクリックすると選択しているサウンドファイルを再生します。

④動きの変化を「検出終了」した時に再生するサウンドファイルを設定します。

「開始」をクリックするとファイルの選択画面が開きます。

「再生」をクリックすると選択しているサウンドファイルを再生します。

⑤サウンドファイルのかわりにフォルダーの中にあるすべてのサウンドファイルをランダムに再生します。対応するサウンドファイルの拡張子は「wav」に限ります。

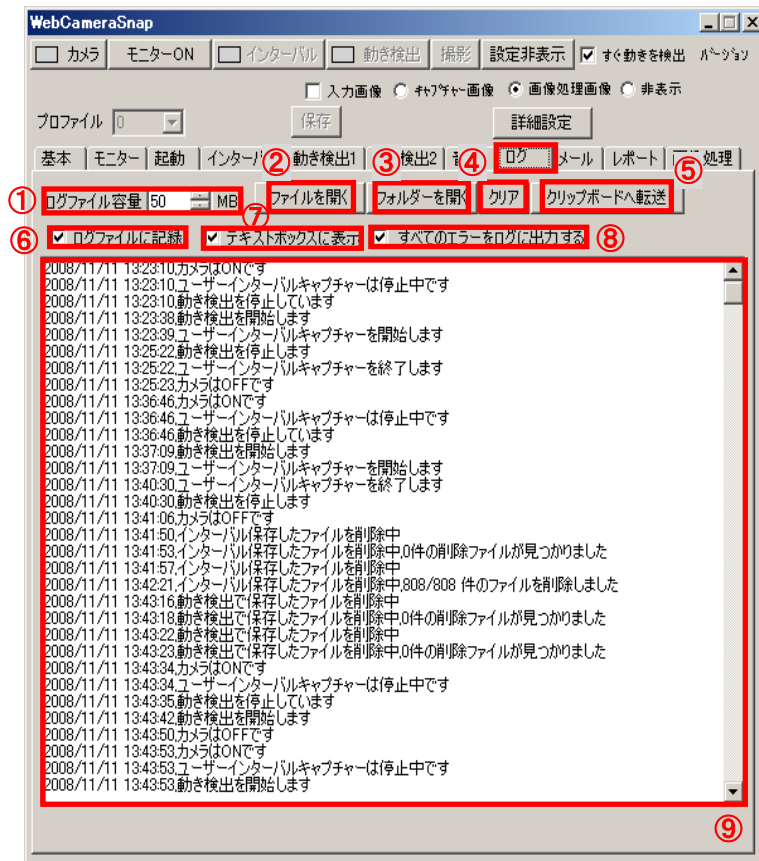
⑥動きの変化が始まってから終了するまでの間、②「開始」で指定したサウンドファイルを継続再生します。つまり、動きが続いている間だけサウンドファイルが再生されます。

⑦動き検出を開始するまでの間、繰り返し再生するサウンドファイルを指定します。「動き検出」ボタンをクリックしてから実際に動き検出動作を開始するまでの間、遅延時間が設定されている時に有効です。

⑧「動き検出」が ON になり検出動作を開始した時に再生するサウンドファイルを指定します。

3.8 ログ 最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル>ログ



①保存するログファイルサイズの上限(MB 単位)を指定します。ログファイルがこの容量を超過すると新しいログファイルが作成されます。それまでのログファイルは拡張子に「.bak」を付けて保存されます。

②「ファイルを開く」: 現在記録中のログファイルを開きます。

③「フォルダーを開く」: ログファイルが保存されているフォルダーを開きます。

④「クリア」: ⑨のテキストエリアに表示されているログ情報を消去します。ログファイルは削除しません。

⑤「クリップボードへ転送」: ⑨のテキストエリア

に表示されているログ情報をクリップボードに転送します。

⑥「ログファイルに記録」: チェックを入れるとログファイルへのログ情報の記録を開始します。

⑦「テキストボックスに表示」: チェックを入れると⑨のテキストエリアにログ情報の表示を開始します。

⑧「すべてのエラーをログに出力する」: チェックを入れるとすべてのエラーをログ情報として出力します。具体的には、キャプチャーした画像が1つ前のフレームの画像と同じであった場合に通知が出力されます。

⑨ログ情報を表示しています。

3.9 メール

メール送信する場合は必ず設定を行ってください

▼設定パネル>メール

定期的に Web カメラで撮影したり、動きを検出した時に送信するメールの送信設定を行います。

本設定にはご加入のプロバイダのメールサーバを利用しますので、メールでお知らせの機能を利用される方は、お手元に設定書をご用意ください。

メール送信は認証不要な従来の SMTP 送信と SMTP 認証にのみ対応しています。

(*)POP before SMTP には未対応です。

①メールの件名を設定します。実際のメールは、この件名の後ろに(開始)、(継続)、(終了)、(定期報告)などの文字が付加されます。

②差出人のメールアドレスを設定します。ご自身のメールアドレスなどを入力してください。

③差出人の名前を設定します。

④メール送信に使うプロバイダの SMTP サーバ名を指定します。

⑤SMTP 認証のユーザーID(ユーザ名とかアカウントなどとも呼ばれます)を指定します。SMTP 認証を利用しない場合は、空欄のままで構いません。

⑥SMTP 認証のパスワードを指定します。SMTP 認証を利用しない場合は、空欄のままで構いません。

⑦SMTP サーバとのタイムアウトを指定します。既定値は 10000 ミリ秒(10 秒)です。通常はそのまま構いません。

⑧SMTP 認証方式を指定します。CRAM-MD5/LOGIN/PLAIN に対応しています。

⑨SMTP ポート番号を指定します。従来の SMTP 送信は 25、サブミッションポートを利用する場合は 587 を指定してください。

⑩「SMTP サーバにテスト接続」をクリックすると設定した情報をもとに送信メールサーバにテスト接続します。

⑪「有効」にチェックするとメール送信を有効にします。

⑫メールを送る状況毎に個々にメールを送信するかどうかを設定できます。「画像添付」のチェックを外すと、各状況において画像の添付を行いません。

⑬メールアドレスに送信先のアドレスを入力します。

⑭「テスト送信」をクリックすると送信先にテストメールを送信します。事前に①～⑩の送信設定を済ませておいてください。

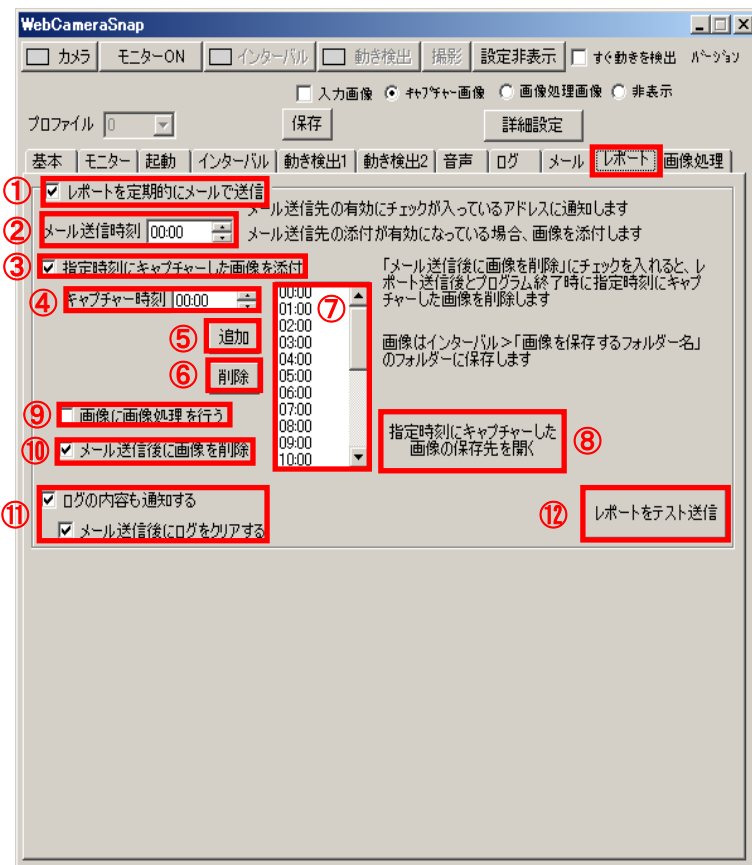
⑮メールに添付する画像形式と圧縮率(JPEG 形式の場合)を指定します。画像形式は、JPEG,BMP,PNG を利用できます。

⑯「検出した画像を 90 度右に回転させてから縮小」にチェックを入れると、画像を右に 90 度回転させた後に指定のピクセルに縮小してメールに添付します。

3.10 レポート

最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル>レポート



システムの動作状態を定期的にメールで通知する設定を行います。通知メールには指定時刻にキャプチャーした画像を添付することができます。

①定期的にレポートメールを送信する場合にチェックを入れてください。

②レポートメールの送信時刻を設定します。

③レポートメールに指定時刻（⑦の指定時刻一覧にある時刻）に自動的にキャプチャーした画像を添付します。メールの送信先が携帯メールなどの場合は、メールの容量が大きいいため、添付画像が受信できないこともありますので、ご注意ください。

④キャプチャーを行う時刻を入力します。時刻リストに追加するには、⑤「追加」をクリックして⑦の一覧に追加してください。

⑤④「キャプチャー時刻」の時刻を⑦の設定時刻の一覧に追加します。

⑥⑦の一覧で時刻を選択して「削除」をクリックすると設定時刻を削除します

⑦自動的にキャプチャーする時刻を表示しています。

⑧指定時刻にキャプチャーした画像の保存先を開きます。保存先は、インターバル>「画像を保存するフォルダー名」のフォルダーです。

⑨指定時刻にキャプチャーした画像に画像処理を行う場合にチェックを入れます。

⑩レポートメールを送信した後に、指定時刻にキャプチャーした画像を削除する場合にチェックを入れます。

⑪レポートメールにログ情報を入れる場合にチェックを入れます。ログが大きい場合、メールの送信先が携帯メールなどの場合に、ログを受信できない場合がありますので、ご注意ください。

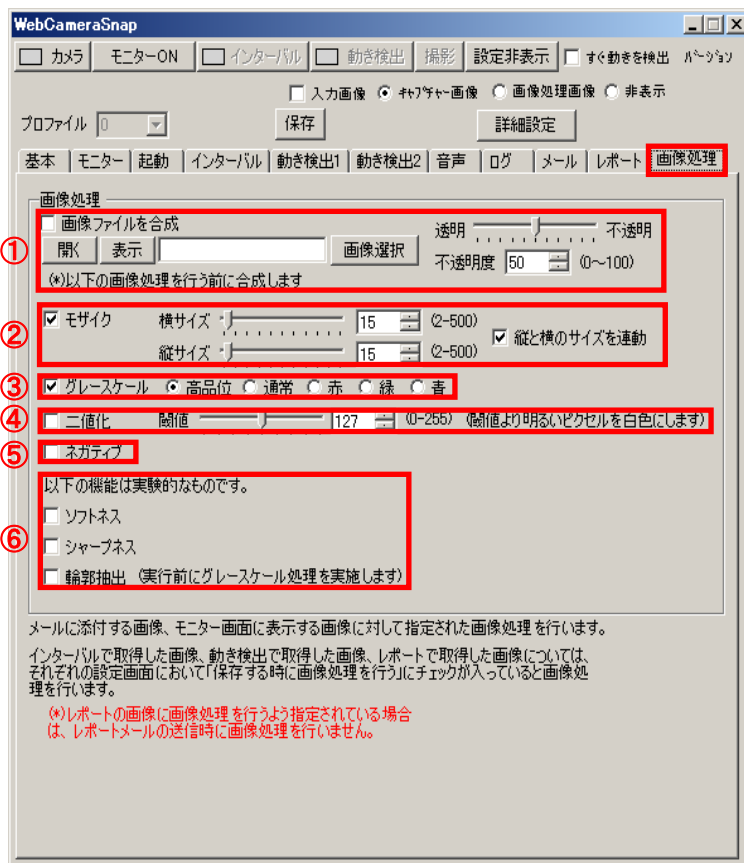
「メール送信後にログをクリアする」にチェックを入れると、レポートメールを送信した後にログ情報をクリアします。

(*)本ソフトのログ画面に表示されている情報がクリアされるだけで、既に出力済みのログファイルの内容はクリアされません。

⑫「レポートをテスト送信」をクリックすると送信先にテストメールを送信します。事前に「メール>メール送信先」においてアドレスを設定しておいてください。

3.11 画像処理 最小設定の場合は変更しなくても大丈夫です

▼設定パネル＞画像処理



Web カメラから取得した画像（キャプチャー画像）に画像処理を行う場合に設定します。

①「画像ファイルを合成」にチェックを入れると、指定した画像をキャプチャー画像に重ね合わせて合成します。また、重ね合わせる際に透明度を設定できます。

「開く」をクリックするとフォルダーを開きます。

「表示」をクリックすると画像を表示します。

「画像選択」をクリックするとファイル選択ダイアログを表示します。

②モザイク処理を行いたい場合にチェックを入れます。「縦と横のサイズを連動」にチェックを入れ横サイズ、または、縦サイズを変更すると両方とも同様に変化します。

③グレースケール（白黒）表示したい場合にチェックを入れます。白黒に変換する方法として4種類（高品位、通常、赤、緑、青）を選択できます。お好みの方法を選択してください。なお、各方法の処理時間の長さは、時間がかかる方から順番に、「高品位＞通常＞赤＝緑＝青」となっています。

④二値化処理したい時にチェックを入れます。あるピクセルの明るさが指定した閾値より大きければ白色、閾値以下であれば黒色にします。本処理の実施前に「グレースケール」処理を内部的に実行します。

⑤ネガティブ処理したい時にチェックを入れます。ネガ画像が得られます。

⑥処理時間が著しくかかるため、実験的な機能です。何かのお役に立てるかもしれませんので、選択できるようにしています。

ソフトネス：画像をソフトにします。

シャープネス：画像をシャープにします。

輪郭抽出：物体の輪郭を抽出します。輪郭線として表示したい場合は、次のように設定してください。

「二値化」にチェック、「ネガティブ」にチェック、「輪郭抽出」にチェック

対象物により異なりますが、二値化の閾値は 10 程度にすると良好な輪郭線が得られます。

注意事項

画像処理は、インターバル撮影や動き検出で取得したキャプチャー画像に対して、ファイルを保存する前に行っています。（画像処理を行うように指定されている場合）

モニター表示で画像処理の結果を表示させている場合は処理が重複しますので、処理に時間がかかります。

コンピュータの性能があまり高い場合は、モニター表示で画像処理の結果を表示しないことをお勧めします。

モニター画面で画像処理の結果を確認した後、実運用ではモニター画面を「キャプチャー画像」または「非表示」で利用してください。

3.12 ソフトの終了方法

3.11 までで一通りのソフトの設定が完了しました。本ソフトは、メイン画面右上の閉じるボタン  をクリックすると終了します。本ソフトを利用される方は続いて P.23 からの [4.ソフトを使ってみましょう](#) をご覧ください。

3.13 ソフトのアンインストールの方法

ソフトウェアを継続利用される方はアンインストールする必要はありません。

P.23 からの **4.ソフトを使ってみましょう** にページをお進めください。

- ・評価版をインストールして使ってみたけれど思うように使いこなせなかった。
- ・自分が思っていたようなソフトでなかった。

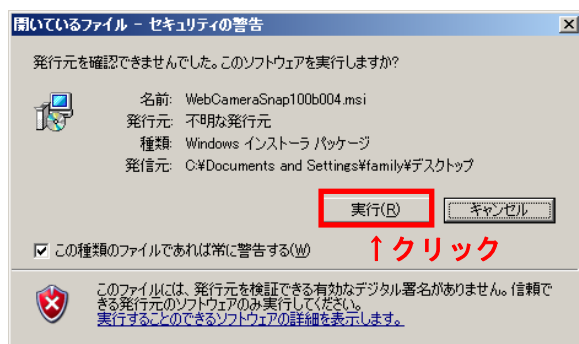
そのような場合は、以下の方法でソフトをアンインストールしてください。そして、後述する設定ファイル、ログファイルとインストール先フォルダーを削除すると本ソフトを完全に削除することができます。

アンインストールの方法は 2 種類あります。

(1) インストーラを使う方法

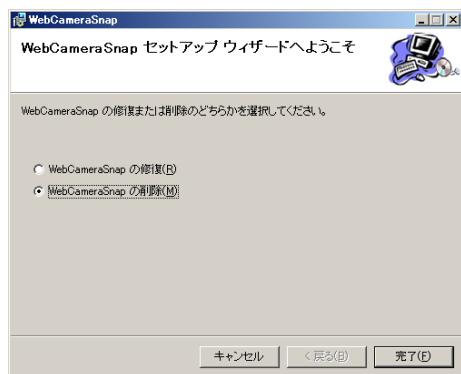


インストールする時に実行したプログラムファイル「WebCameraSnapXXX.msi」をダブルクリックしてください(XXX にはバージョン番号が入ります)。インストールプログラムが起動します。



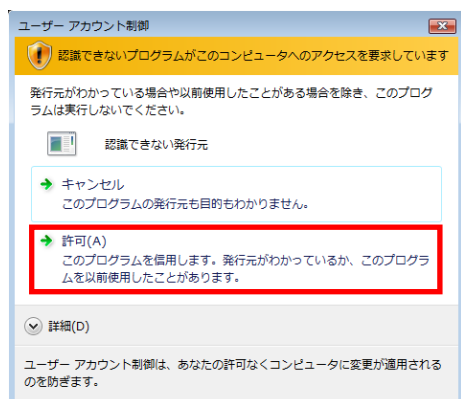
Windows のバージョンによって、このように表示されることがあります。

セキュリティの警告が表示されたら、「実行(R)」をクリック



WebCameraSnap セットアップウィザードへようこそ

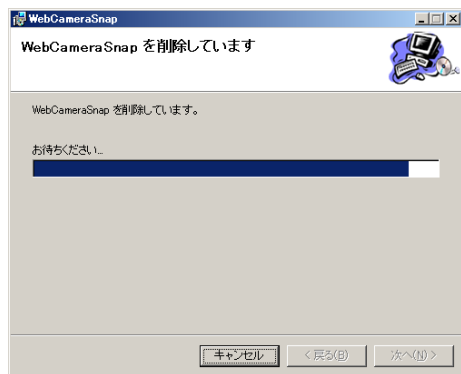
「WebCameraSnap の削除(M)」を選択し「完了(F)」をクリック



Windows Vista の場合

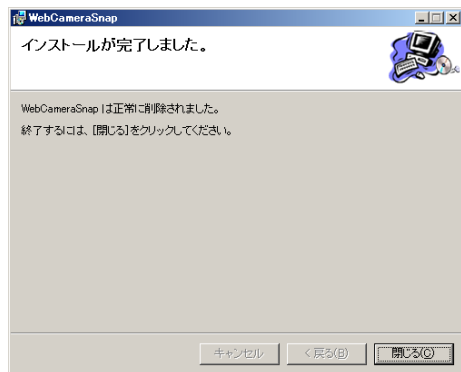
Windows Vista の場合は左の画面が表示されます。

「許可(A)」をクリックしてください。



WebCameraSnap を削除しています

プログラムを削除しています、しばらくお待ちください。



インストールが完了しました

プログラムの削除が完了しました。

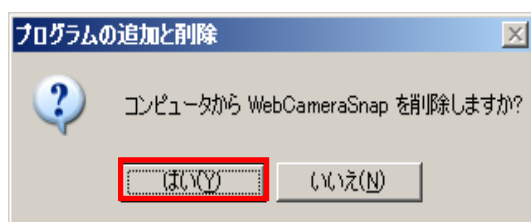
「閉じる」をクリックして終了してください。

(*)この後、後述する設定ファイル、ログファイルとインストールフォルダーの削除が残っていますので、もう少しお付き合いください。

(2)コントロールパネルからアンインストールする方法

スタート→設定(S)→コントロールパネル(C)→プログラムの追加と削除

「プログラムの追加と削除」が起動しますので、一覧から「WebCameraSnap」を選択し「削除」をクリック。



コンピュータから「WebCameraSnap」を削除しますか?と確認を求められます。

「はい」をクリックするとプログラムが削除されます。

(*)次ページに記述している設定ファイル、ログファイルとインストールフォルダーの削除が残っていますので、もう少しお付き合いください。

設定ファイル、ログファイルとインストールフォルダーの削除

これまでのアンインストールの方法で、プログラムファイルが削除されました。

あとは以下の場所にある、設定ファイル、ログファイルとインストールフォルダーを削除すると完全にソフトを消去できます。

[設定ファイルとログファイル]

C:\Program Files\ONE CREATION\WebCameraSnap\WebCameraSnap.ini

C:\Program Files\ONE CREATION\WebCameraSnap\WebCameraSnap_0.ini

C:\Program Files\ONE CREATION\WebCameraSnap\WebCameraSnap.log (作成されていない場合もあります)

C:\Program Files\ONE CREATION\WebCameraSnap\WebCameraSnap.bak (作成されていない場合もあります)

(複数台の Web カメラを使う設定をされている方は WebCameraSnap_XX.ini というファイルも削除,
XX には 1~9 の数値が入ります)

[インストールフォルダー]

- ・弊社ソフト WebCameraSnap だけを利用されていた場合は以下のフォルダーごと削除してください。

C:\Program Files\ONE CREATION

- ・弊社の他のソフトをインストールされている場合は、以下のフォルダーだけを削除してください。

C:\Program Files\ONE CREATION\WebCameraSnap

4. ソフトを使ってみましょう

本章では、本ソフトの基本的な使い方を順を追って 4 つご紹介します。

4.1 Web カメラの映像を表示させてみよう

4.2 手動で撮影してみよう

4.3 定期的に撮影させてみよう

4.4 動きを検出したら撮影させてみよう

そして、撮影した映像を、画像ファイルとして保存したり、メールで送信しましょう。

4.1 Web カメラの映像を表示させてみよう

本節では、Web カメラの映像をモニター画面に表示させるところまで実践します。

表示できたら、4.2 手動で撮影してみようで自分の思ったタイミングで手動撮影します。

Web カメラは「3.1 基本設定 ①Web カメラの設定」を参考に事前に設定しておいてください。

まず、ソフトを起動しメイン画面を表示させてください。



ここで使うのは「カメラ」と「モニターON」です。

①メイン画面の「モニターON」をクリックしてモニター画面を起動してください。



左側の画面がモニター画面です。

ここに Web カメラの映像が表示されます。

今は、カメラの電源を入れていませんので、映像はまだ表示されていません。

②メイン画面の「カメラ」をクリックしてください。



クリックしてしばらく待つと、モニター画面に映像が表示され、メイン画面がカメラからカメラの表示になれば成功です。

何も映らない、あるいは真っ暗に表示される場合は、

- ・ Web カメラのレンズの前に障害物がないかどうか
- ・ Web カメラがパソコンに接続されているか
- ・ Web カメラが正しく選択されているか・認識されているか
- ・ Web カメラのインストールは完了しているか

などの確認を行ってください。

4.2 手動で撮影してみよう

つづいて、**モニター画面**に表示されている映像を手動で撮影してみましょう。

その前にモニター映像の種類について説明します。**モニター画面**に表示できる映像は3種類あります。

- ①入力画像 : 何も加工していない Web カメラの映像
 - ②キャプチャー画像 : 時間、カメラ名、場所などの文字を合成した映像
 - ③画像処理画像 : キャプチャー画像にさらに指定した画像処理を行った映像
- ②と③はどちらか一方を表示することができます。①の「入力画像」とあわせて2画面を横表示できます。

今回は、「キャプチャー画像」を選択してください。では、手動で撮影してみましょう。

▼**モニター画面**でキャプチャー画像を表示



- ①「キャプチャー画像」を選択します。

モニター画面にキャプチャー映像が表示されます。

- ②次に、画面に表示されている映像を静止画像として撮影してみます。「撮影」をクリックしてください。

モニター画面の「撮影」をクリックすると、撮影した静止画像が新たに開かれた**プレビュー画面**に表示されます。

初期設定では、5秒経過すると**プレビュー画面**は自動的に消えます。表示秒数は変更できます。

(*)**メイン画面**の「撮影」ボタンでも**モニター画面**の「撮影」ボタンと同じことができます。

▼**プレビュー画面**



プレビュー画面の表示時間の変更方法

メイン画面: 「設定表示」→「基本」→「撮影ボタンで撮影した時の動作」(画面右下あたりにあります)

「プレビュー画面を表示する秒数」の秒数を変更してください。秒数を0にすると、**プレビュー画面**の閉じるボタンをクリックするまでプレビュー画面を表示したままにできます。

プレビュー画面の上でマウスを右クリックすると、表示している画像の保存(BMP形式のみ)および反転ができます。

4.2.1 画像ファイルとして保存してみましょう

モニター画面の「撮影」ボタンをクリックするとプレビュー画面が表示されましたが、同時に画像ファイルとして保存することもできます。

撮影ボタンで撮影する時に画像ファイルとして保存する方法

メイン画面：「設定表示」→「基本」→「撮影ボタンで撮影した時の動作」

「撮影した画像を保存する」にチェックを入れる。

あわせて、画像ファイルの保存場所を次の方法で必ず設定してください。

保存場所を設定していない場合はファイルを保存することができません。

撮影ボタンで撮影した画像ファイルの保存場所を設定する方法

メイン画面：「設定表示」→「インターバル」→「保存先のフォルダー名」の所で、保存先のフォルダー名を設定してください。指定したフォルダー名のすぐ下に撮影した画像ファイルが保存されます。

保存される画像ファイル名は：YYYYMMDDhhmmssnnn.jpg の形式です。

（画像形式は、メイン画面：「設定表示」→「基本」→「保存する画像形式」で設定できます）

フォルダー名の設定を行う時の注意事項

「次の日数を経過したら自動削除」にチェックを入れると、指定した日数が経過すると自動的に指定したフォルダーに入っている画像ファイルを削除します。

保存しておきたい画像ファイルは必ず、この保存先フォルダーと違う場所に移動させてください。一旦削除された画像ファイルは元に戻せません。

これで、「撮影」ボタンをクリックすると自動的に画像ファイルとして保存できるようになります。

なお、「キャプチャーした画像を保存する」にチェックがあっても無くても保存場所としています。

4.2.2 メールで送信してみましょう

モニター画面の「撮影」ボタンをクリックした時に電子メールに画像を添付して送信することもできます。

送信できるメールアドレスは、メイン画面：「設定表示」→「メール」→「メール送信先」で設定したアドレスです。

撮影ボタンで撮影する時に電子メールを送信する方法

メイン画面：「設定表示」→「基本」→「撮影ボタンで撮影した時の動作」

「撮影した画像をメールで送信する」にチェックを入れる。

メールの送信設定、送信先は 3.9 メール の設定画面で事前に行っておいてください。

4.3 定期的に撮影させてみよう



「インターバル」をクリックすると定期的に Web カメラの映像を取り込むことができます。

「インターバル」をクリックする前に、撮影の周期を設定してください。

撮影周期を設定する方法

メイン画面：「設定表示」→「インターバル」→「撮影周期(秒)」で撮影したい周期を設定しておきます。

1～3600 秒までの間隔で設定できます。

(*)3600 秒以上の間隔をご希望の方はお知らせください。ご要望があれば、今後のバージョンにおいて 24 時間以内の間隔に対応できるようにします。

Web カメラの映像を定期的に撮影するだけでは、実は役に立ちません。撮影した映像を画像ファイルに保存したり、メールで送信して初めて役に立ちます。次節では、それぞれの方法について説明します。

4.3.1 画像ファイルとして保存してみましょう

メイン画面：「設定表示」→「インターバル」→「キャプチャーした画像を保存する」にチェックを入れてください。

続けて、保存先のフォルダー名を設定してください。指定したフォルダー名のすぐ下に年月日を表すフォルダーを作成してその中に画像が保存されます。

フォルダー作成「時」「分」「秒」にチェックを入れると、年月日のフォルダーの下にチェックした「時」「分」「秒」に応じてフォルダーを作成し、その下に画像が保存されます。

設定画面の「開く」をクリックすると、指定したフォルダーを開いて確認することができます。

例 撮影時刻が「2008 年 11 月 26 日 13 時 10 分」にフォルダー作成「時」「分」にチェックを入れると、
 {指定したフォルダー名}¥20081126¥1310
 の下に画像が保存されます。

なお、保存される画像ファイル名は：YYYYMMDDhhmmssnnn.jpg の形式です。

(画像形式は、**メイン画面**：「設定表示」→「基本」→「保存する画像形式」で設定できます)

(*)周期の最小単位が「秒」ですので、フォルダー作成の「秒」にチェックを入れても意味がありません。これまでのバージョンでは、ミリ秒単位でキャプチャー画像を保存していたため、その名残で設定を残しています。

フォルダー名の設定を行う時の注意事項

「次の日数を経過したら自動削除」にチェックを入れると、指定した日数を経過すると自動的に指定したフォルダーに入っている画像ファイルを削除します。

保存しておきたい画像ファイルは必ず、この保存先フォルダーと違う場所に移動させてください。一旦削除された画像ファイルは元に戻せません。

これで、撮影周期に応じてフォルダーに自動的に画像ファイルが保存されるようになります。

4.3.2 メールで送信してみましょう

メイン画面 : 「設定表示」 → 「インターバル」 → 「キャプチャーした画像をメールで送信する」 にチェックを入れてください。これで、撮影周期にあわせて電子メールに画像が添付され送信されるようになります。

送信先のメールアドレスは、**メイン画面** : 「設定表示」 → 「メール」 → 「メール送信先」 で設定したアドレスです。

メールの送信設定、送信先は **3.9 メール** の設定画面で事前に行っておいてください。

4.4 動きを検出したら撮影させてみよう



「動き検出」をクリックすると動きを検出した時に Web カメラの映像を取り込むことができます。

標準設定は、動きが「あった」時に動きを検出します。逆に、動きが「なかった」時を検出するように設定することもできますが、ここでは、動きが「あった」時の場合を試してみましょう。様々な設定を行えるようになっていますので、詳しくは、[3.5 動き検出設定\(1\)](#)と [3.6 動き検出設定\(2\)](#)をご覧ください。

動きがあった時に撮影する方法

メイン画面：「設定表示」→「動き検出 1」→「以下の秒数以上の変化が「ある／無い」時に動きを検出」において、「ある」を選択してください。

Web カメラの映像を動きがあった時に撮影するだけでは、実は役に立ちません。撮影した映像を画像ファイルに保存したり、メールで送信して初めて役に立ちます。次節では、それぞれの方法について説明します。

4.4.1 画像ファイルとして保存してみましょう

メイン画面：「設定表示」→「動き検出 1」→検出後の動作において「動きを検出した画像を保存する」にチェック、続けて、保存先のフォルダー名を設定してください。指定したフォルダー名のすぐ下に画像が保存されます。

フォルダー作成「年月日」「時」「分」にチェックを入れると、年月日のフォルダーの下にチェックした「時」「分」に応じてフォルダーを作成し、その下に画像が保存されます。「時」または「分」を選択すると自動的に「年月日」が選択されます。

「開く」をクリックすると、指定したフォルダーを開いて確認することができます。

例 動きを検出した時刻が「2008 年 11 月 26 日 13 時 10 分」でフォルダー作成「年月日」「時」「分」にチェックを入れると、

{指定したフォルダー名}¥20081126¥1310

の下に画像が保存されます。

なお、保存される画像ファイル名は：YYYYMMDDhhmmssnnn.jpg の形式です。

(画像形式は、**メイン画面**：「設定表示」→「基本」→「保存する画像形式」で設定できます)

フォルダー名の設定を行う時の注意事項

「次の日数を経過したら自動削除」にチェックを入れると、指定した日数が経過すると自動的に指定したフォルダーに入っている画像ファイルを削除します。

保存しておきたい画像ファイルは必ず、この保存先フォルダーと違う場所に移動させてください。一旦削除された画像ファイルは元に戻せません。

これで、動きを検出すると自動的に画像ファイルが保存されるようになります。

4.4.2 メールで送信してみましょう

メイン画面:「設定表示」→「動き検出 1」→検出後の動作において「動きを検出した画像をメールで送信する」にチェックを入れてください。これで、動きを検出すると自動的に電子メールに画像が添付され送信されるようになります。

送信先のメールアドレスは、**メイン画面**:「設定表示」→「メール」→「メール送信先」で設定したアドレスです。

メールの送信設定、送信先は **3.9 メール** の設定画面で事前に行っておいてください。

5.評価版について

5.1 評価版と製品版の違い

評価版

- ・登録できるメールアドレスの個数は最大 1 個です。
- ・動き検出の監視領域は最大 2 箇所です。
- ・モニター画面、保存する画像ファイル、メールに添付する画像にソフトウェア名称が入ります。
(文字列合成に時間がかかるため、ほんの少しの時間だけ性能が落ちます)

製品版

- ・登録できるメールアドレスの個数は最大 3 個です。
- ・動き検出の監視領域は最大 10 箇所です。
- ・モニター画面、保存する画像ファイル、メールに添付する画像にソフトウェア名称は入りません。

次の方法でソフトウェアのライセンス状態(製品版なのか、評価版なのか)を調べることができます。

メイン画面 : 「設定表示」→「基本」において画面右下の「ライセンス状態」をご覧ください

[評価版]

ライセンス状態	評価版	ライセンスキーの確認/変更
評価版は一部の機能が制限されています		

[製品版]

ライセンス状態	製品版	ライセンスキーの確認/変更
---------	-----	---------------

はじめてインストールした直後は、「評価版」ライセンスになっています。ライセンスキーを入力し製品版になると、新しいバージョンをインストールしなおしても製品版としてご利用いただけます。

5.2 ライセンスキーの入手方法

評価版をお使いいただいた後、継続してご利用される場合は、弊社に電子メールまたは Web フォームからご連絡ください。メールにてお支払い方法をお知らせしますので、ご都合のよい方法でソフト代金をお支払いください。ご入金を確認した後に電子メールにてライセンスキーをお知らせします。以下の 2 つの方法をご用意しています。

- ・銀行口座への振込み(振り込み手数料はご負担ください)
- ・ベクタープロレジ

5.3 ライセンスキーの入力方法

ライセンス状態の表示画面において「ライセンスキーの確認/変更」をクリックしてください。

「ライセンス登録」のウィンドウが開きますので、メールで送られてきたライセンスキーをそのまま貼り付けてください。

E-mail アドレスには利用される方のアドレスを入力してください。

入力が終わりましたら、「OK」をクリックしてください。

正しく登録ができましたら、ウィンドウが閉じ、ライセンス状態が「製品版」となります。

6.困った時の対処方法

本ソフトウェアについて何か困った時には、Q&A ページをご参照ください。

製品版のご購入を前提として評価版をインストールされる場合に限り、無償でインストールのサポートを行います。サポートは電子メール、FAX、書面にて対応いたします。

なお、大変申し訳ございませんが、フリーソフト版の代替として評価版を利用される場合は、本インストールのサポートのご利用はご遠慮くださいませ。

サポート窓口の情報は、Q&A ページの「サポート」をご覧ください。

Q&A ページ

<http://www.onecreation.jp/products/webcamerasnap/qa.html>

キャプチャーソフトのページ

<http://www.onecreation.jp/products/webcamerasnap/>

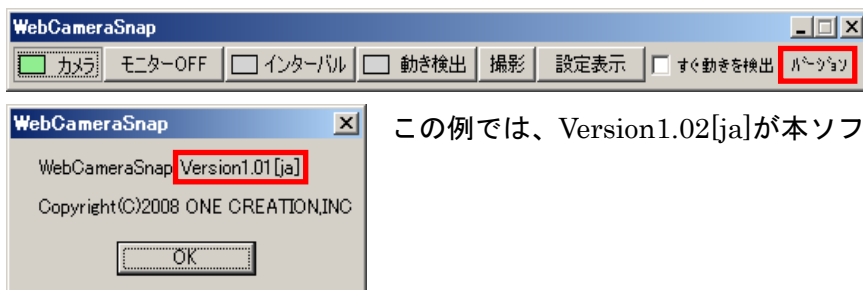
弊社ホームページ

<http://www.onecreation.jp/>

本ソフトをご利用中のお客様へ

弊社サポートにお問い合わせされる際には、次の情報もあわせてお知らせください。

- ・ ライセンスをお申込みいただいたお客様のお名前(法人利用の場合は会社名、ご担当者様名)
ベクタープロレジにてご購入のお客様はライセンスキーもあわせてお知らせください。
- ・ 連絡が取れる電子メールアドレス
- ・ Web カメラの名前・型式(USB 接続タイプの場合は USB ケーブルの大体の長さも併記してください)
- ・ ご利用中のパソコンの名前・型式(自作パソコンの場合はマザーボードのメーカー名・型式など)
- ・ ご利用中の OS(WindowsXP/Vista)
- ・ パソコンのメモリー容量
- ・ ハードディスクの残り容量
- ・ 本ソフトのバージョン番号



バージョンをクリックすると
バージョンが表示されます。

この例では、Version1.02[ja]が本ソフトのバージョンです。

7.その他

著作権

本ソフトの著作権は全て、有限会社ワンクリエーションが所有します。

再配布

本ソフトの転載・再配布を禁止します。

免責事項

- ・弊社にて動作確認を行っておりますが、利用される方のパソコンで確実に動作する保証を行うことができませんので、ご容赦ください。
- ・評価版を無償でご利用いただけますので、ご購入前にお試しいただき、問題なく動作し、機能にご納得いただいた後にご購入ください。商品の性格上、ご購入後のご返金はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本ソフトを利用した結果、利用しているパソコンに対して問題、ならびに関連する損害が発生したとしても、弊社は責任を取ることができませんので、ご了承ください。
- ・WindowsXP、Vista に対応した Web カメラ(DirectShow 対応のもの、ビデオ形式は RGB24 のみ)での動作を想定してプログラムを作成しておりますが、必ず動作する保障はできません。万一、動かない場合はご容赦ください。
- ・評価版のサポートは行っておりませんが、ご購入を前提としたインストールのサポートは電子メール、FAX、書面にて対応させていただきます。

厳守事項

本ソフトのご利用に際して、以下の事項にご同意いただいたものとします。

- ・本ソフトの改造・解析・またそれに準じる行為を禁じます。
- ・本ソフトの無断公開を禁じます。
- ・本ソフトのライセンスキーの公開・譲与を禁じます。

本ソフトを活用したシステム

本ソフトは、Web サーバ、メールサーバと連携するシステムにも利用できます。

具体的に構築内容についてご興味のある方はお気軽にご相談ください。

8.編集履歴

2008-12-02～12-03,Version1.01(R2) Vista 対応

2008-11-13～11-26,初版 Version1.01 対応